

霧島山の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

新燃岳

霧島山新燃岳では、17 時 15 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

本日（22 日）16 時 34 分頃、新燃岳で噴火が発生し、新燃岳の北東約 10km の小林市や高原町では、降灰を確認しました。

新燃岳では、火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があります。火口から 1 km 程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象（図 1、2）

本日（22 日）16 時 34 分頃に噴火が発生しました。天候不良のため、監視カメラ等では噴煙は確認できませんでしたが、現地調査や聞き取り調査等によると、新燃岳の北東約 10 km の小林市や高原町で降灰混じりの雨が降っているのを確認しました。16 時 34 分の火山性微動を伴う噴火による降灰と考えられます。

・地震や微動の発生状況（図 3）

今月 19 日から火山性地震が増加し、19 日は 81 回、20 日は 167 回、21 日は 183 回、本日（22 日）は 19 時まで 261 回発生しています。本日 16 時 34 分に火山性微動が発生するまでは、微動は発生していませんでした。

・新燃岳火口及び火口周辺の状況（図 5～7）

昨日（21 日）、福岡管区气象台が実施した現地調査では、今年 3 月 13 日の観測に比べ新燃岳火口内の状況に特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、火口底内の温度分布等に特段の変化は見られませんでした。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

※ 資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』、『25000 分の 1 地図画像』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。

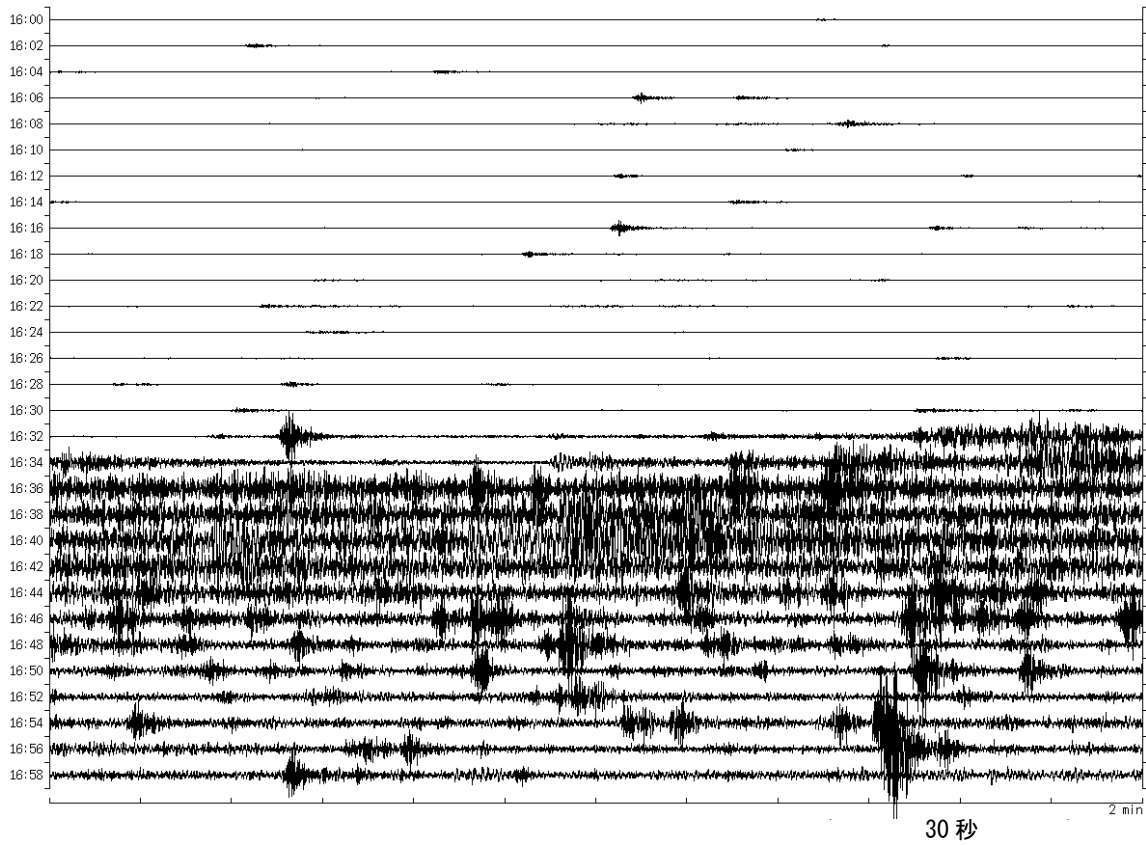


図1 霧島山 A点南北動の噴火発生前後の震動波形（8月22日16時～17時）

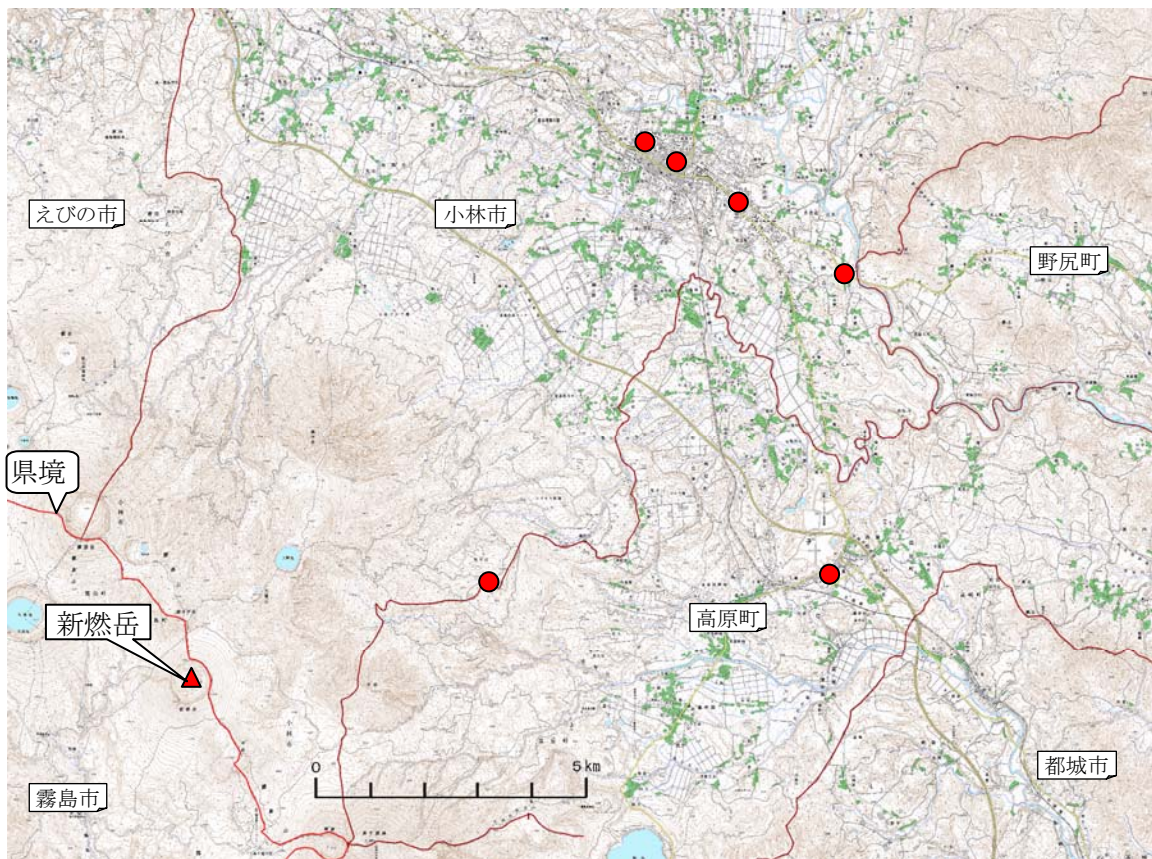


図2 霧島山 降灰分布図
現地調査や聞き取り調査等による
●は降灰を確認した地点

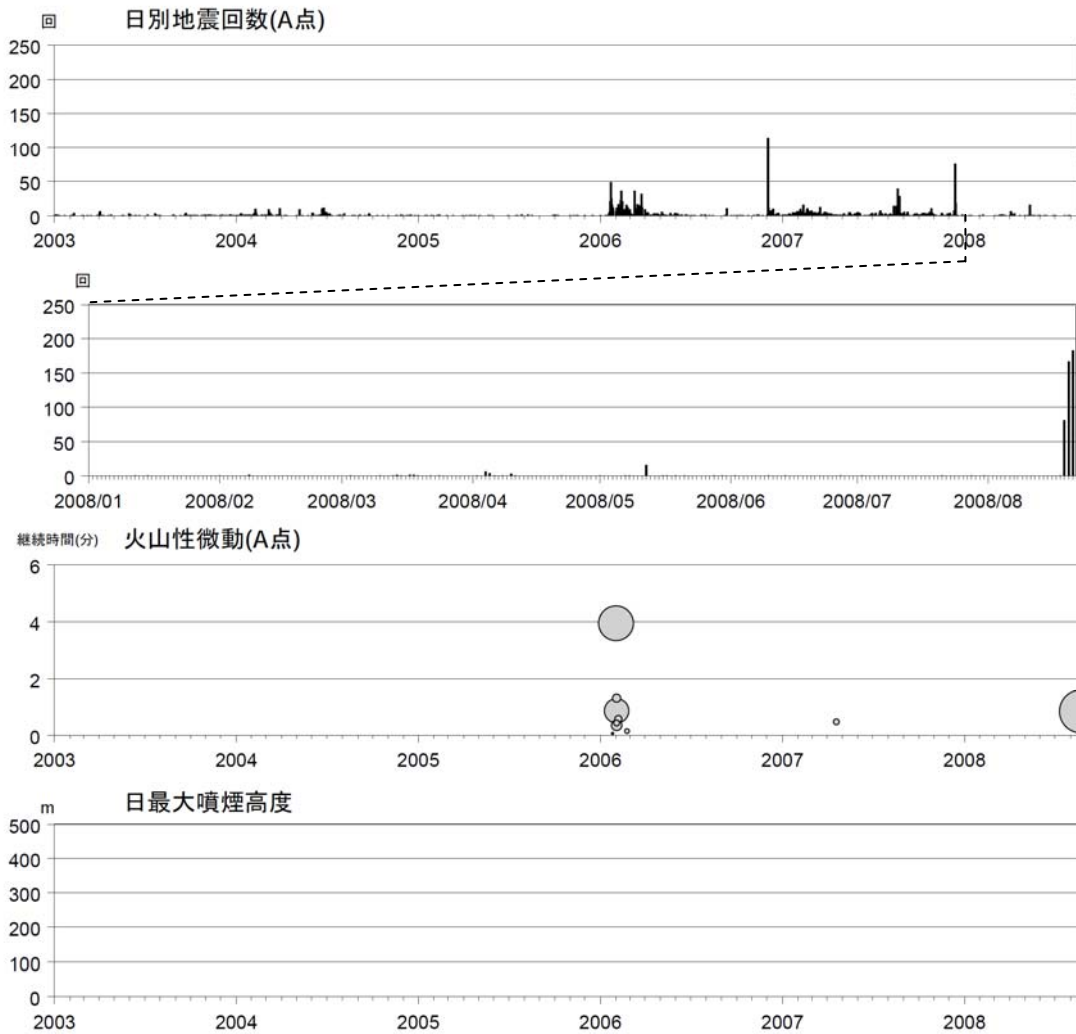


図3 霧島山 地震・微動の状況

16時34分に発生した火山性連続微動は、22時現在、ほぼ収まりつつあります。



図4 霧島山 観測点配置図

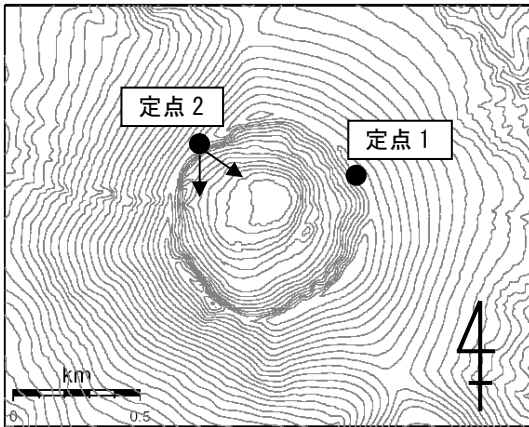
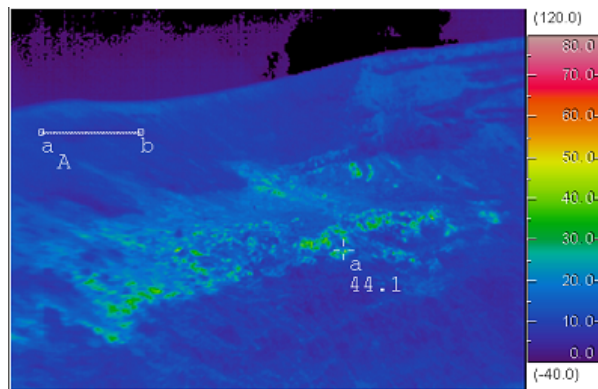


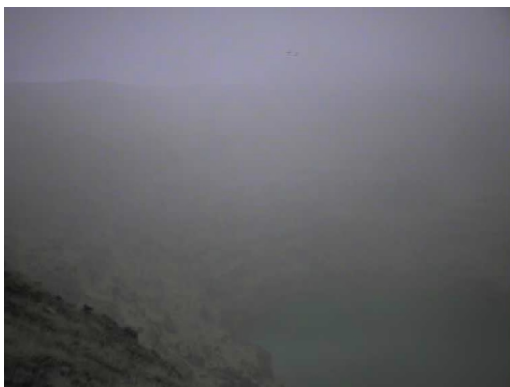
図 5 霧島山 新燃岳の観測定点



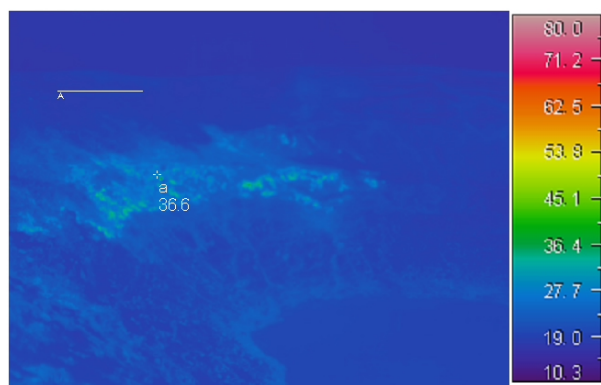
2008 年 3 月 13 日 可視画像



2008 年 3 月 13 日 熱画像



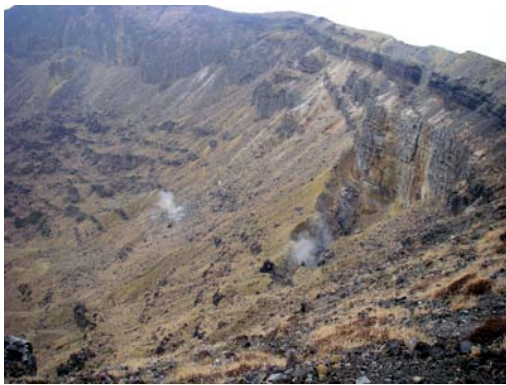
2008 年 8 月 21 日 可視画像



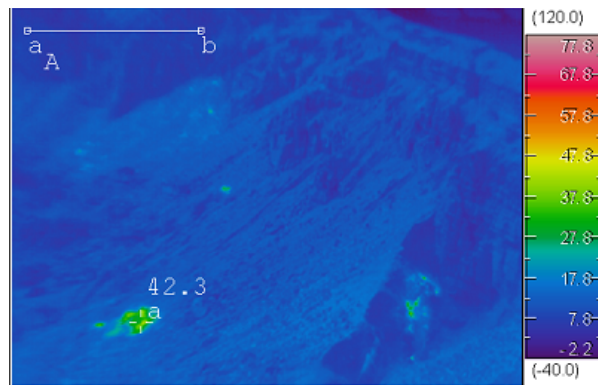
2008 年 8 月 21 日 熱画像

図 6 霧島山 観測定点 2 から撮影した火口内東側斜面の可視画像と熱画像

雲がかかり観測条件は悪く温度は単純に比較できないが熱異常域の分布に大きな違いは見受けられません。



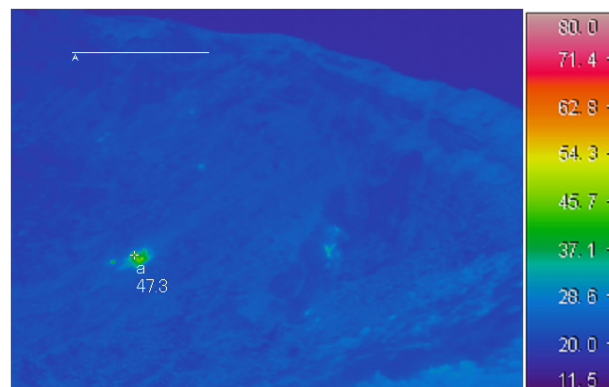
2008年3月13日 可視画像



2008年3月13日 熱画像



2008年8月21日 可視画像



2008年8月21日 熱画像

図7 霧島山 観測定点2から撮影した火口内西側斜面の可視画像と熱画像

熱異常域の温度、及び熱異常域の分布に特段の変化は認められません。

- ※ 図6と図7の熱画像は、温度の異常がない領域を基準に表示温度を設定しています。
- ※ 悪天のため、定点1からの観測は実施できませんでした。